

2021年1月18日

各 位

株式会社八十二銀行

GDP2020（気候変動）における国内銀行界最高ランクの評価獲得について

八十二銀行（頭取 湯本 昭一）は、国際環境非営利団体である GDP による 2020 年の気候変動調査結果において、国内銀行界単独トップとなる「A-」評価を受けました。

以下に概要をお知らせいたします。

1. GDP（気候変動）調査について

GDP は、環境への取組みを投資判断の基準にしようとする投資家により設立された世界有数の ESG 評価機関です。GDP では毎年、「気候変動」・「水資源」・「森林」への対応の 3 分野で世界主要企業の環境対策に関する取組みや、その情報開示等について各企業へ質問状を送付し回答内容を評価しています。2020 年の（気候変動）調査では、全世界 9,500 社超の企業が調査されました。

2. GDP2020（気候変動）における当行評価について

当行では、気候変動に関する同調査に対し毎年回答を実施しております。2020 年の評価結果は、2019 年までの「B」評価から 1 ランク上がり「A-」評価となりました。「A-」評価は、全 9 ランクの上位 2 番目となるものであり、環境マネジメントにおけるリーダーシップレベルの高評価です。

今回の評価は、これまでの役職員一丸となった取組みに加え、第 31 次長期経営計画で掲げた「温室効果ガス排出量の削減目標」の進捗が良好であることなどが評価されたものです。

なお、当行は今回の評価結果により、5 年連続して国内銀行界第 1 位となりました。

3. 当行の気候変動に対する取組みについて

日本政府は、2020 年 12 月に「2050 年脱炭素社会の実現」を掲げるなど、気候変動に対する取組みの重要性は増しています。当行では環境問題への対応を優先すべき課題のひとつと位置づけ、長年にわたり環境ボランティア活動や省エネ活動等に取り組んでまいりました。

2020 年度は、県内 6 店舗において CO2 フリー電力の購入を実施したほか、TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）の最終提言に沿った取組みも進めております。今後も当行の強みである環境経営のさらなる深化に取り組んでまいります。

以 上

